

経営比較分析表（令和3年度決算）

福島県 南相馬市

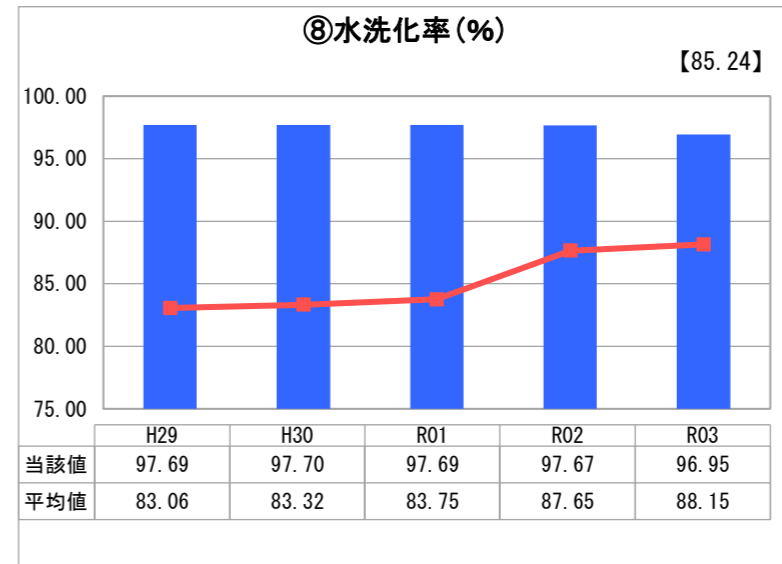
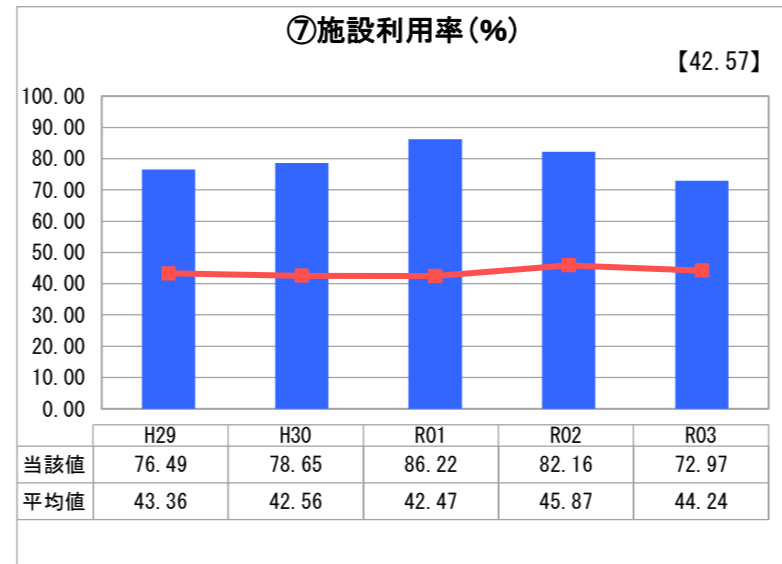
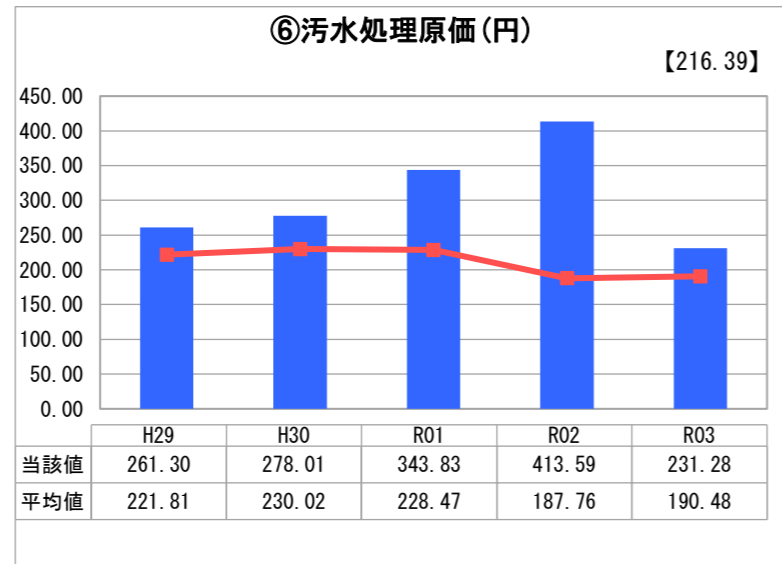
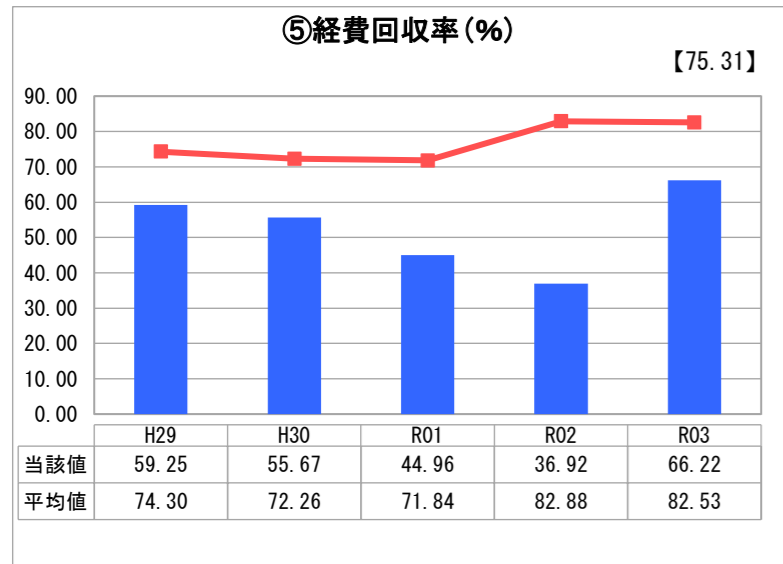
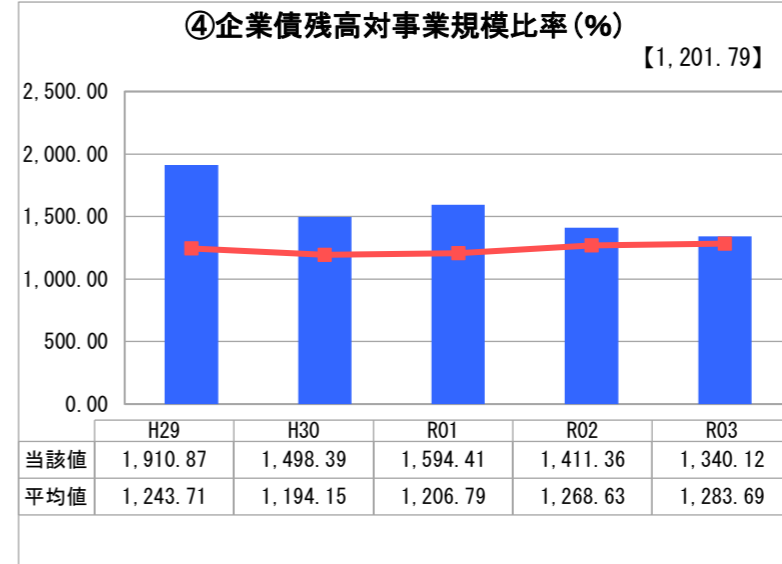
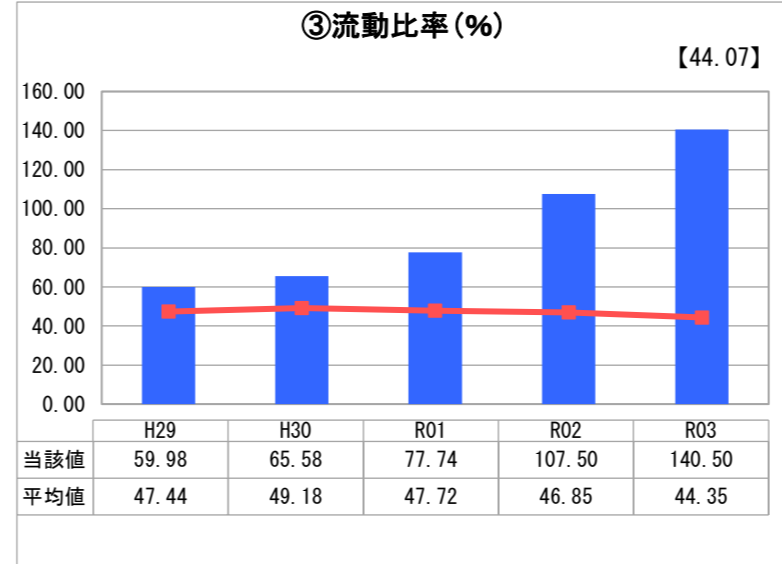
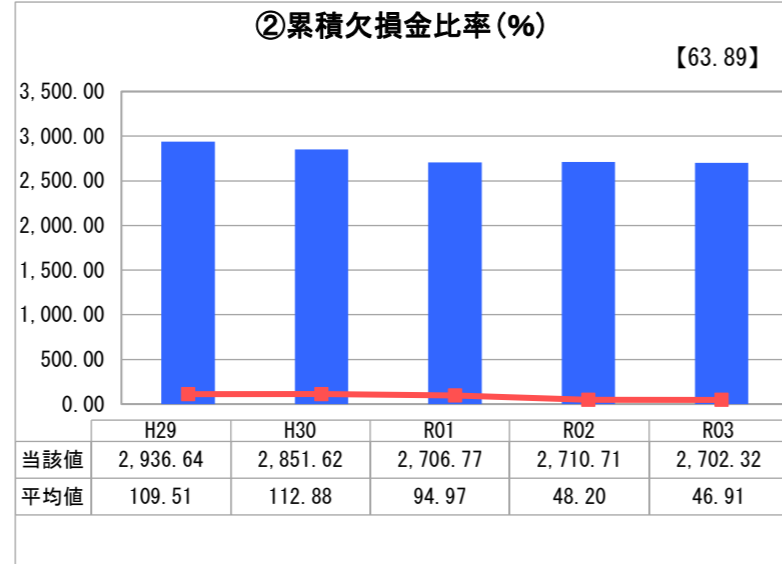
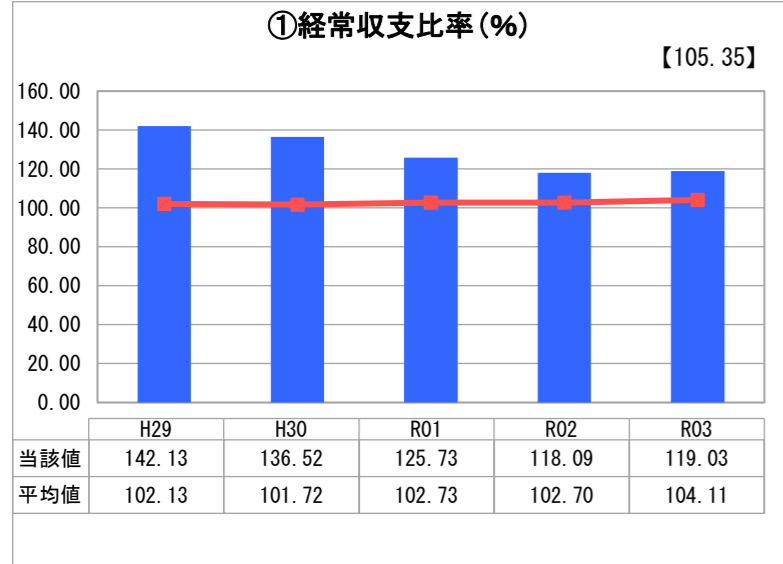
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	61.35	1.19	50.64	2,722

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
58,467	398.58	146.69
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
688	0.27	2,548.15

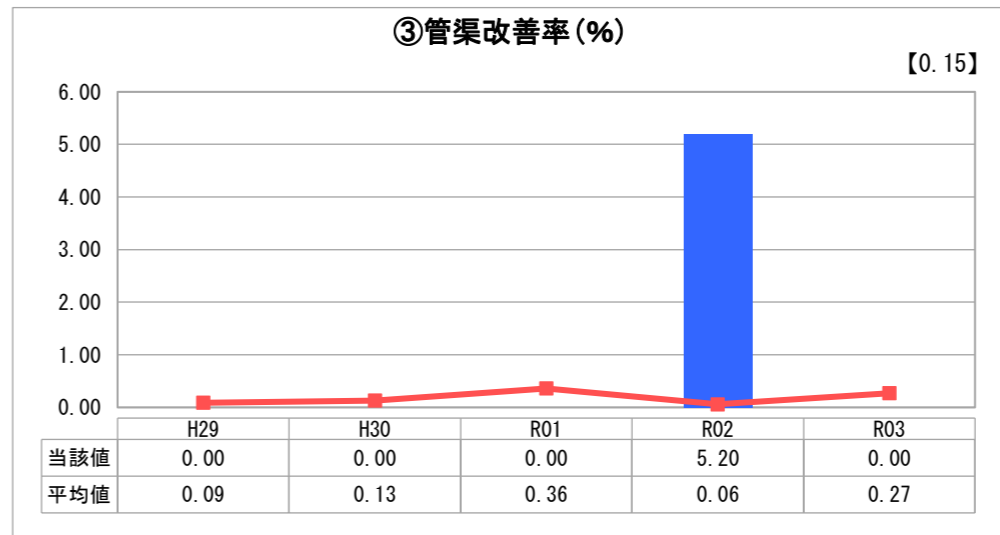
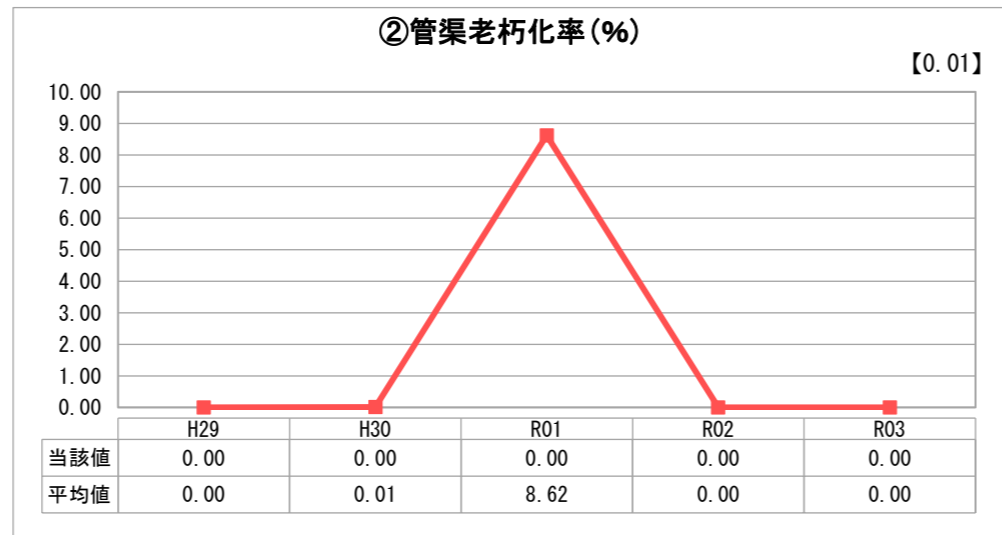
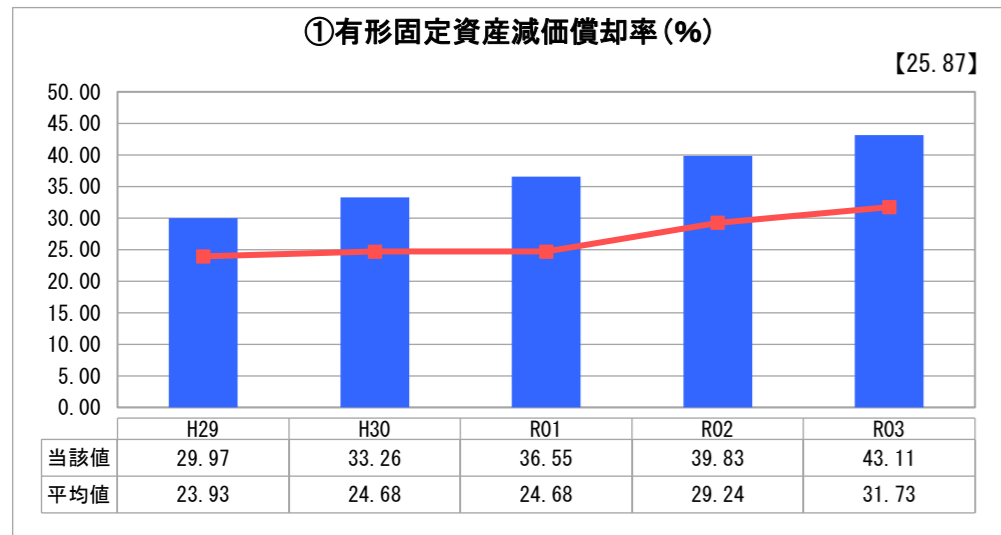
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
過去5年間、いずれも100%を上回っており、類似団体平均を上回っている状況である。主な要因は、維持管理費及び企業債の利子償還金の減少によるものである。

②累積欠損金比率
東日本大震災の影響により大きく増加したが、平成28年度で被災管渠処分工事が完了したことから、徐々に減少している。

③流動比率
類似団体平均を大きく上回っている。これは、企業債の償還が進んでいることによるものである。

④企業債残高対事業規模比率
使用料収入は横ばい又は減少傾向にあるものの、企業債の償還が大きく進んでいることから、比率は減少傾向にあり、類似団体平均と同水準となっている。

⑤⑥経費回収率、汚水処理原価
類似団体平均を下回るものの、令和3年度は大きな修繕等がなく、維持管理費を抑えることができたことから、汚水処理原価が減少し、それに伴い経費回収率も大きく改善した。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
類似団体平均を上回っており、年々上昇してきていることから、適切な時期に施設の更新工事を行っていく必要がある。

②③管渠老朽化比率、管渠改善率
特定環境公共下水道事業は、平成3年に供用開始された事業であり老朽化は進んでいないため、管渠老朽化率は0%となっている。
なお、当該地区は不明水が多く有収率も低い数値を示していたが、令和2年度に修繕工事を実施したことにより、管渠改善率が突出している。

全体総括

本市の特定環境保全公共下水道事業は、東日本大震災による津波被災によって2処理区のうち1処理区が流出しており、供用開始時の財政想定と大きく状況が変化している。

また、今後、人口減少に伴う使用料収入の減少が見込まれることや、物価高騰等の影響により更なる維持管理費の増加も見込まれることから、現行使用料体系の妥当性や改定の必要性を検証していく必要がある。

併せて、平成28年度に策定した経営戦略について、実状と乖離している傾向がみられることから、現行使用料体系の検証結果を踏まえた上で改定し、中長期的な財政計画に基づき健全経営を維持していく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。